



Australasian Bat Society Conference 参加記

大沢 夕志 大沢 啓子



ツギホコウモリ

存在である。2年に一度開いている大会が、今年はニュージーランドのオークランドで行われるという。そして大会終了後のフィールドトリップではなんとこのツギホコウモリを見に行くというので、わくわくしながら参加した。

4月19日から3日間開催された大会は参加者100人ほどで、口頭発表とポスター発表があり、分類、形態、生態、行動などの学術的なものから、オオコウモリと飛行機の衝突や洞窟の管理など保護に関するもの、BCIのツアーに参加した体験記まで、さまざまであった。われわれにとっては、ニューカレドニアからオオコウモリのコロニーについてポスター発表に来ていた方に会えたのが収穫で、長年の懸念だったニューカレドニアで撮ったオオコウモリの写真の確認をもらえた。

大会終了後は、鳥の保護区として知られているオークランド近くのティリティリマタンギ島への日帰り観察会と、北島中央部にあるプルオラ森林公園で3泊4日にわたってコウモリ調査を行う2種類のフィールドトリップがあり、われわれはプルオラ森林公園の方に参加をした。

オークランドを朝9時過ぎにバスで出発して、プルオラまでは約5時間、午後3時少し前に着いて遅い昼食をしたのち、先発隊はあらかじめ見つけておいたツギホコウモリのねぐらの樹洞前にハープトラップをかけに行く。我々はそちらには行かず裏の林を散歩しニュージーランドヒタキ、エリマキミツスイ、ハイイロオウギビタキなどの小鳥を観察する。この林でも2つハープトラップを張る。17時頃キッシュとパスタサラダの夕食が配達されてきて、さっき昼食を食べたばかりだなあと思いながら食べ、18時にはバスに乗つて先発隊がトラップを張っている場所へ向けて出発する。車で20分、さらに歩いて20分と聞いていたが、途中で一台の車がパンクしたので、やたらたくさんのヘッドライトの光の中、タイヤ交換をしたため少々時間がかかるてたどり着いた。既にハープトラップは下におろされていて、たくさんのツギホコウモリがトラップ下部の採集袋の中で走り回っていた。さすが地上を走って採餌するだけあって、その動きはすばやい。手際よく測定して毛を刈ってマーキングし、一部は発信器をつけている様子を見学する。フィールドトリップ自体は男女半々くらいいたと思うが、作業しているのが圧倒的に女性ばかりだったのが印象的だった。

フィールドトリップ2日目は2グループに分かれて行動するのだが、コウモリ媒花*Dactylanthus*を見にいく森林散策に参加。あいにく花のピークは過ぎていたが、少しつぶれた花と種が見られた。森林の中に樹冠観察用の塔があり、ここからは樹冠の様子

8年前『コウモリ進化・生態・行動』を翻訳したとき、ニュージーランドの寄生植物で固有種の*Dactylanthus taylorii*は、同じく固有哺乳類のツギホコウモリ*Mystacina tuberculata*によって花粉媒介され、このツギホコウモリはヘラコウモリ科以外で植物を食べる唯一の種であるという文章と、地面に張り付くように咲く花と、はいつくばったコウモリのイラストがずっと目に焼き付いていた。そして、いつかこの奇妙な寄生植物を花粉媒介し、地上を走るのが得意だという不思議なコウモリを見てみたいものだと思っていた。

Australasian Bat Societyは、会員数200人強、コウモリの会のオーストラリアと周辺地域版といった



フィールドトリップ

だけでなくニュージーランドバトなどの野鳥も見られた。午後も2グループに分かれて行動である。車で1時間半ほどのところにあるGrand Canyonという洞窟(というか巨大な岩の割れ目状の渓谷)にハープトラップをかけに行く。ここはニュージーランドにいるもう一種類のコウモリ、ミゾクチコウモリ *Chalinolobus tuberculatus* のナイトルーストである。一部の人たちがハープトラップを組み立てハープを修理している間に残りは渓谷の奥へ見学に行く。昨夜寒さで動けなくなったのか、1頭のミゾクチコウモリが地面にうずくまっていた。この夜は、夕食後グループに分かれて、大会の発表の内容に関するおさらいクイズなど、お楽しみ会があった。日本からはわれわれを含めて4人参加したのだが、ちょっとと我々だけでは厳しいので、他のグループに入れてもらう。質問の中には日本にいるコウモリは何種か、オオコウモリは何種かなんていうものもあった。

翌朝、昨日Grand Canyonに行かなかったグループがトラップ回収に出かけたあと、残った人は、テレメトリ調査でかけるグループとカスミ網張りグループに分かれる。カスミ網はポールを使わずに、ロープを上空に枝から枝へと張って、そこから下げた2本のロープの間に網を張るというものだった。このあと個体識別用のIDチップを装着する練習を、死んだネズミで行う。みんなで同じネズミで何回も練習したので、しまいにはネズミは穴だらけになった。このIDチップは、ねぐらなどに出入りする個体をリーダーで読み取るという利用方法が、口頭発表で紹介されていた。夕方は初日と同じ場所にハープトラップを張りがてら、別の場所の *Dactylanthus* を観察する。夜はこのハープトラップと近くに張ったカスミ網で捕れたツギホコウモリの計測を21時頃まで行った。バードコールを手渡されて、鳴らしてくれといわれたのだが、バードコールでコウモリは引き寄せられるのだろうか。そして同行した日本人のF氏曰く、カスミ網にかかったコウモリのはずし方は、かなり下手だとのことである。ハープトラップが普及している訳がわかつたような気がする。

翌日は土砂降りの雨が降る中、再び車に分乗してオークランドないしはそれぞれの目的地へと解散した。コウモリの捕獲も計測もやったことないわれわれにも、なかなか楽しいフィールドトリップであった。

コウモリの会のフェスティバルは日本各地でそれぞれの地域の人にコウモリに興味を持つもらうという目的のため、一般向けの講演展示が中心であるが、せっかく全国のコウモリな人が集まる年に一回の機会、専門家が聞いても楽しめるものがあつてもいいかなとも思っていたところに、今回の乗鞍フォーラムの話を耳にした。

あいにくわれわれはこれからしばらくオオコウモリを巡って放浪の旅に出るので、参加できないけど、期待しています。 (おおさわ ゆうし・おおさわ けいこ 埼玉県川越市)



ポスター発表